

資源不足の実態

昭和十八年には、飛行機のエンジンの潤滑油にするための、ひま油を採取するために各家庭でヒマの木を植えることを強制した。

この油類を多くして作戦の機油に利用する事もある。  
 電は鉛酸と有機物とを混合してあるが、鉛酸は利用は困難と進化して居るので、長年の常用  
 とはならぬが家庭の燃料にはよい。  
 家庭用、及び切草などを通じて庭先に植えて、式月位隔いて細い網を造れば意外丈夫なものが出  
 来る。  
 英内那本質即ち(草)を碎き又は潰して人造板(ホルバロックス)を造るか「パルプ」  
 して人造紙類又は薬紙原料に供す、家庭用燃料とするも亦至極妙である。 以上

昭和十八年度

蓖麻栽培

献納運動の趣意

並に栽培の要領

大政翼賛會

帝國印刷株式會社 (東京-500)



**蓬採取を考へ御座る**

蓬の採取は、五月下旬ヨリ六月下旬迄、石川縣管内各町に於て行はるべきこととす。蓬の採取は、五月下旬ヨリ六月下旬迄、石川縣管内各町に於て行はるべきこととす。

蓬の採取は、五月下旬ヨリ六月下旬迄、石川縣管内各町に於て行はるべきこととす。

**輪島特産品株式會社**

また、町史編纂事業時に初めて見た資料であるが、蓬を採取して衣料の原料として使おうとした有様がわかる。  
 兵力・資源など枯渇していた状況が痛いほど分る資料である。